

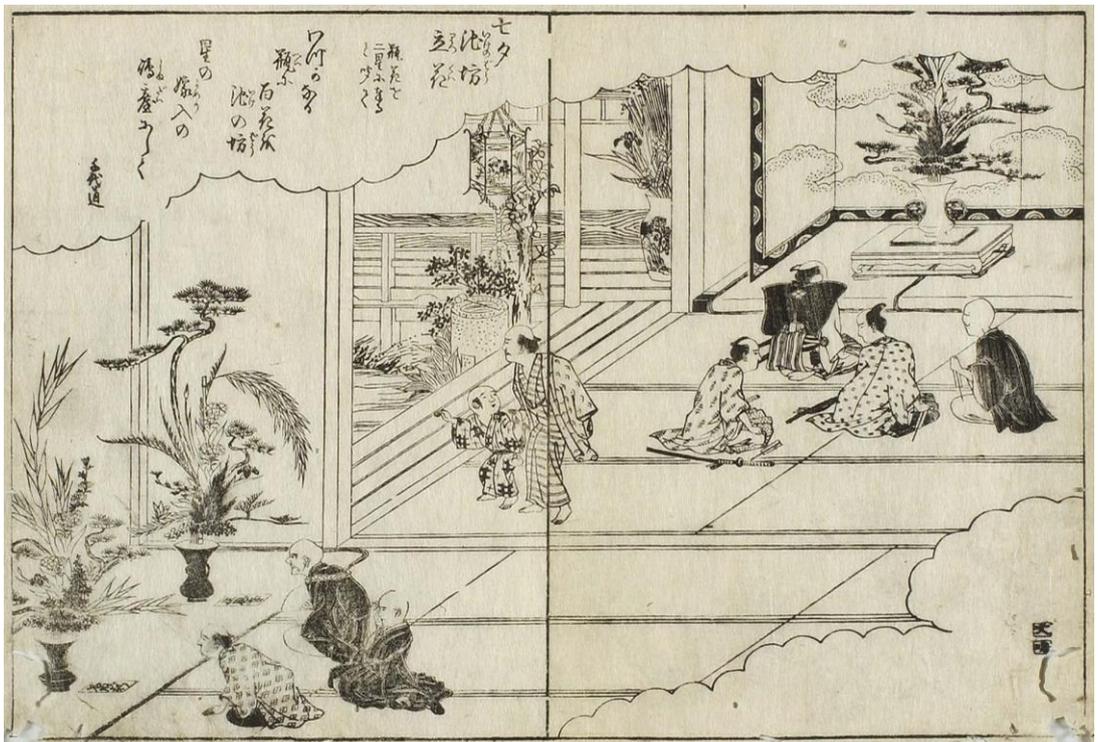
いけばなの確立

とよみひでよし てんかとういつ
豊臣秀吉による天下統一が成された頃(1590年頃)

から、武家の屋敷では儀礼の飾りとして、花のある木
を生ける「立花」が取り入れられ、いけばなは、大き
く豪華になりました。

江戸時代中期以降は複雑な様式であった立花より
も、町人が中心となって一般の町家の中でも手軽に楽
しめる「生花」が流行しました。この頃、全国各地で
新しく流派をたてる華道家が現れたほか、いけばなの
入門書も多く出回り、爆発的な流行が occurred しました。

明治時代になると、女子教育において積極的にいけ
ばなが取り入れられ、現在は世界に向けて、日本を代
表する文化として知られるようになります。



江戸時代の立花のようす
(「都林泉名勝図会」より)